

大学の卒業式とパウエルの新たな課題

トランプ大統領のハーバード大学への攻撃は執拗で常軌を逸しているように見える。だがハーバードが米国の既存のエスタブリッシュメントの象徴の一つであることを考えれば、トランプにとっては筋の通ったことなのだろう。特にMAGA 陣営から見ればディープステートに対する反撃でもある。

こうした事態が進む中、メディアなどで勢いのあったハーバードの有名教授や出身の著名な学者の声があまり聞こえないのはどうしたことなのか。声を挙げたが事態が改善しないのでさじを投げたか、自分の身にも危害が及びそうになり怖気ついたのか。

こうした中、FED のパウエル議長が先の日曜日にプリンストン大学の卒業式でスピーチを行った。プリンストンはトランプが攻撃の対象にしてきたアイビーリーグの大学の一つでハーバードも含まれる。

スピーチの中でパウエルは、大学は国家の貴重な資産であり、国家の発展ばかりでなく、米国が世界をリードするのに多大な役割を担ってきたことを強調した。また学生に民主主義の擁護の重要性を訴えた。スピーチはトランプが大学への攻撃を強めた直後だった。その点ではトランプ批判でもあるだろう。

パウエルもまたトランプからの利下げや辞任圧力を受けてきた身だ。その点では世界をリードし、国家の発展を支えてきた重要な機関が互いに金融政策の独立と、教育・研究の自主性を擁護するために共闘を続けようとのメッセージだった。

今日はFOMC の5月の議事録が発表されるが、トランプ政権の関税、貿易政策が定まらないことでインフレ見通しを難しくしていることが強調されると見られる。

さらには米国の財政赤字の問題がある。IMF の見通しでは、米国の財政赤字(GDP 比)は2024年の6.4%から35年には9%への上昇が見込まれる。とても持続できる数字ではない。トランプ減税はこのトレンドに拍車をかける。

今回の財政赤字拡大によるドル金利高は必ずしもドル高に結びつかないことが分かった。むしろ市場はドル売りに傾いた。つまり米国債は無条件に安全資産ではなくなった。

こうした新たな市場のダイナミズムに FED のパウエルは、陰りゆく基軸通貨ドルの擁護者として、信用力に疑念が出てきた米国債を核とする資本市場のシステムリスクの管理者として、トランプの攻撃を乗り越えて立ち向かわなければならない。